

「攻めの経営で地域農業を守る」



山本 湧太 (24 歳) 新規学卒
(宇和島市)

1 就農の動機・理由

柑橘農家の三男として生まれ育ち、中学生の頃から、農業に対して「職業」としての興味を持っていました。兄 2 人が県外の企業に就職したことを契機に、大学卒業後、実家の農業経営の一部を引き継ぎ、就農しました。

○農業用施設

農業用倉庫 1 棟

○主要農業機械

2tトラック 1 台
動力噴霧器 1 台
選果機 1 台
ウッドチップパー 1 台
運搬車 1 台

2 農業経営の概要

○経営の展開

項目	就農時の経営 (2018 年)	現在の経営 (2019 年)	将来の経営 (2022 年)
労働力	男 1 人 (本人)	男 1 人(本人) パート 2 名	男 1 人(本人) パート 3 名
経営耕地	樹園地 75 a 計 75 a	樹園地 75 a 計 75 a	樹園地 148 a 計 148a
経営内容	極早生温州 4a 早生温州 9a 南柑 20 号 14a 愛媛果試第 28 号 10a 甘平 25a キンカン 13a	極早生温州 4a 早生温州 8a 南柑 20 号 14a 大津 4 号 1a 愛媛果試第 28 号 10a 甘平 25a キンカン 13a	極早生温州 20a 早生温州 16a 南柑 20 号 60a 大津 4 号 13a 愛媛果試第 28 号 10a ボンカン 4a 甘平 25a

3 あしあと

(1) 就農までの主な経歴

出身地 宇和島市津島町
職歴 なし
就農研修歴 なし
就農年月 平成 30 年 6 月

(2) 就農時の思い

高校・大学時代に農業について学んでいたことや、両親の支えがあったことで農業に対する安心感があったものの、自分が描いていた経営スタイルが本当に実践できるのか不安でした。また、「みかんづくり」だけではなく、経営者としての視野や価値観を習得に取り組みたいと考えていました。

4 就農時の取り組み

(1) 技術の習得

両親や JA、県の指導員、果樹同志会の先輩方に技術を教わりながら、栽

培に取り組んでいます。

また、「宇和島地区農業後継者協議会」に入会し、他県の先進的な産地を視察したほか、令和元年度の中国四国若い農業経営者大会において、愛媛県代表として意見発表を行うなど、スキルアップや仲間づくりに励んでいます。

(2) 資金の準備

柑橘生産に欠かせない機械を導入するため、農業次世代人材投資事業や青年等就農資金を計画的に活用しました。

(3) 農地・住宅の確保

農地は、親の農地を一部継承しました。住宅は、両親と同居しています。

(4) その他苦労したこと

実際に就農すると剪定や摘果など、長年の経験や園地や樹ごとの様相に対応した作業がほとんどで、高校や大学時代に学んでいた基礎知識より、実践的な技術や知識が必要でした。

しかし、日々の仕事をこなすうちにだんだんと高度な技術や知識を備えることができ、そうした「小さな進歩」が農業への活力になりました。

5 農業経営の特徴

経営の中心は温州みかんで、本県で開発された愛媛果試第 28 号や甘平などの中晩柑類の栽培にも挑戦し、周年生産となるような栽培体系をとっています。

また、生果や格外品を加工したジュースを「山本みかん」というブランド名で、産直市場や宇和島市の返礼品、全国の顧客に直接販売するなど、加工品の販売にも注力しています。

6 これからの夢

10 年後、20 年後、故郷に恩返しできる経営体になっていること。具体的には、自身の経営を法人化ことにより、規模拡

大し、雇用創出や耕作放棄地の管理等に取り組む、地域農業を守る力を持った経営体へ成長することが大きな夢です。

7 夢の実現に向けた取り組み

地元商工会や青年会議所に所属し、異業種の方々と意見交換を行っています。経営者の感覚を身に付ける貴重な場として利用しているほか、新しいアイデアを生み出すきっかけになっています。

8 就農を目指す方へのアドバイス

人に頼ること。就農後は分からないこと、不安なことばかりで、悩み事を自分だけで囲いがちになります。農業は人の関わり合い無くして、成り立たない生業です。迷った時は、相談する習慣を身に付けておくことが大事です。

○ 指導機関からのひとこと

山本さんは、物腰が柔らかく、誰とでも交友を深めることのできる「親和性」の高さを感じる農家さんです。

就農時に抱いた熱い情熱を忘れずに、地域の「顔」となる農業者として、今後の活躍を期待しております。

執筆機関

南予地方局産業振興課地域農業育成室
電話番号 0895-28-6117



南柑 20 号の選果の様子